

■液晶・次世代ディスプレイ・部材

□コベルコ科研 ディスプレーを高精細・低消費電力化、『IGZO』超える新素材 2019. 2. 3

コベルコ科研は、液晶ディスプレイに使われる酸化物半導体「IGZO」の2~3倍の電子移動度を実現した酸化物半導体用成膜材料を開発した。8Kテレビなど次世代の高精細大型フラットパネルディスプレイ向けに最適で、量産体制を整えた。国内外のパネルメーカーへ提案を始めており、既に1社へ量産品として採用された。年間で15億円の売上高を目指す。開発した成膜材料は「KOS-B03C」。酸化物半導体を構成するインジウム・ガリウム・亜鉛の酸化物材料に、スズをブレンドするなどで特性を出した。

□凸版印刷、4月に連結子会社、オルタスを吸収合併 2019.2.5

凸版印刷は連結子会社で中小型TFT液晶の開発・製造・販売を手がけるオルタステクノロジー（東京都日野市）を4月1日に吸収合併する。オルタステクノは凸版印刷のほぼ100%に近い子会社だったが、カシオ計算機がわずかに持っていた株式を取得した。100%子会社化により人材配置を活性化し、新事業の創出につなげる。

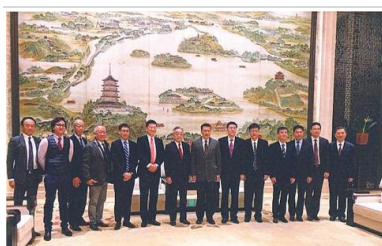
□慶応大学 サングラスでも液晶画面鮮明にする専用フィルム 2019. 2. 4

慶応義塾大学の小池康博教授らはサングラスをかけてもスマホや液晶テレビなどの画面をカラーできれいに見ることができる技術を開発した。開発したフィルムは、大きさが「nm単位」の炭酸カルシウムの結晶を入れた。偏光サングラスをかけてどのような角度から眺めても、鮮やかな画像が見えるという。

□DNPや東大 ディスプレー肌にぴたっ 微細なシワで伸縮・耐久 2019. 2. 7

大日本印刷（DNP）は東京大学などと組み、肌にはりつけて使っても壊れないディスプレイを開発した（「スキンドisplay」）。基板となるゴムをあらかじめ伸ばしておくことで表面に微細なシワを作り、伸縮性と耐久性を高めた。このディスプレイは高分子フィルムをはった薄いゴムシートの上に、微細なLEDを等間隔に埋め込んである。LEDの間は伸縮性のある導体でつなぎ、文字や動画などを表示する。厚さは約1mm。

□JDIに買収提案の中台連合が取締役過半数派遣で狙う「実効支配」 2019.2.8



経営再建中の液晶大手 JDI が、中国・台湾企業のコンソーシアムから買収提案を受けている。このまま「日の丸ディスプレイ」は、中台連合の軍門に下るのか。全貌が明らかになった。

「日中合作でやっていきましょう」。2018 年 12 月初旬、中国浙江省。日本から訪問した企業の一団は、同省の袁家軍省長が開いた会合で、ある極秘プロジェクトについて話し合っていた。

日中で総勢 20 人近くが一堂に会したこの場に日本側から参加したのは、JDI 東入來信博会長兼最高経営責任者(CEO)と、福井功常務執行役員ら JDI 幹部だ。さらに、JDI の筆頭株主(出資比率 25.3%)の官民ファンドである INCJ から、勝又幹英社長と東伸之執行役員も同行した。

□フレキシブル LED ディスプレーを有機 TFT で駆動、東大発ベンチャー 2019. 2. 12

東大発のベンチャー企業であるオルガノサーキット(千葉県柏市)は、フレキシブル基板上に作製した有機 TFT(薄膜トランジスタ)で駆動する LED ディスプレーを開発し、2019 年 1 月 30 日～2 月 1 日に東京ビッグサイトで開催された展示会「JFlex」で点灯デモを実施した。



有機 TFT 駆動のフレキシブル LED ディスプレーの、「JFlex」での展示内容

有機 TFT は、東京大学教授の竹谷純一氏の研究室が開発した。化学的に安定で溶解性を持つ有機半導体材料を使用し、印刷プロセスによってフレキシブル基板上に高性能なトランジスタを作製した。10cm²/Vs 以上の電子移動度が得られたことで、今回 LED ディスプレーへの適用が可能になった。

□パネル部材 値下がり鈍化 テレビ向け 画面大型化で品薄感 2019.2.13

大型テレビの液晶パネルに使う部材の価格低下にブレーキがかかり始めた。テレビサイズ的大型化が進み、一部メーカーでは大型パネル向け主要部材が不足気味だ。「顧客からの注文に応えきれていない状況だ」ある偏光板メーカー幹部は打ち明ける。**65型以上の大型パネル向け偏光板の不足が目立っている**。2019年の液晶テレビの平均画面サイズは45.1インチ。18年と比べ2.6インチ拡大する見通しだ。

□JDI再建、時間との戦い 今期、5期連続最終赤字 中台勢支援見通せず 2019.2.15

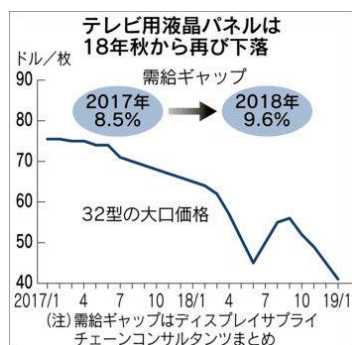
経営再建中の液晶大手ジャパンディスプレイ(JDI)が瀬戸際に追い込まれている。2019年3月期が5期連続の最終赤字になるとの予想を明らかにした。資金繰り懸念も急速に高まっている。「頼みの綱」とする中国と台湾の企業連合による出資交渉も波乱含みで、事実上の期限となる年度末が迫りつつある。

INCJ(旧産業革新新機構)や日本政府の意向次第で「法的整理というシナリオも否定できない」(関係者)との声までさやかれ始めた。

□液晶パネル 1年で4割安 テレビ用 中国勢の増産止まらず

2019.2.19

テレビに使う大型液晶パネルが一段と値下がりました。主力の 32 型は 1 月の大口取引価格が前月比で 9%下がり、1 年間の下落率は 4 割に達した。地方政府の補助金を受けた中国メーカー



の増産が止まらず、在庫が積み上がっている。3 月ごろまでは下落基調が続く見通しだ。パネルメーカーと家電メーカーによるオープンセル（バックライトなどがつかない半製品）の 32 型の 1 月の大口価格は前月比 4ドル安い 1 枚 41ドル前後に決まった。下落は 4カ月連続。2018 年夏にいったん上昇したが同年秋から下落している。55 型は 1 枚 143ドル前後、65 型は 220 ドル前後といずれも前月比 3%下落した。それぞれ前年比では 2 割、3 割安い。

□東レ LCD用フィルム増産

2019.2.20

東レは液晶ディスプレイ用光学フィルムを増産する。成長分野である積層セラミックコンデンサー（MLCC）用離型フィルムの生産設備の増設に乗り、偏光板の保護フィルム、セパレーター用離型フィルムの生産能力も引き上げる。これらは同じ薄膜PETフィルムとして製造ラインを共有するため、増設にともなう生産効率化で光学フィルムの増産につなげる。4K、8Kと液晶テレビの高精細化が進むなか、品質要求が高まる偏光板周りの光学フィルムを強化し、付加価値分野の需要に応える。

□JDI、フォルシアと車載コクピット向けディスプレイで協業

2019.2.27



ジャパンディスプレイ(JDI)は 2 月 26 日、車載コクピット向けディスプレイ事業として自動車部品メーカーである仏 Faurecia Interieur Industrie(フォルシア)と協業プロモーションの覚書を締結したことを発表した。この協業を通じて、同社はフォルシアとともに、**車載向け 32.1 型横長ディスプレイ(アスペ**

クト比 16:3)のプロモーションを行っていくとしている。

すでに両社は 2019 年 1 月に開催された CES 2019 にて車載向け 32.1 型横長ディスプレイを採用したモーフィング・インストルメントパネルを展示済み。同パネルは将来の自動運転を想定してデザインされたもので、手動運転時には、運転者席の前方に位置し、ナビゲーション情報やスピードなど運転に必要な情報、安全情報を表示するほか、自動運転時にはセンターコンソールに移動し、エンターテインメント・スクリーンとして使うことができるというものとなっている。また、前方座席を斜めに動かすことにより後部座席の同乗者とスクリーンを共有することもできるため、例えば、動く映画館としての空間を楽しむこともできるものとなっているという。

■有機EL

□東北パイオニア 厚さ 0.1mmに薄型化パッシブELの用途拡大

2019. 1. 31

パッシブ有機ELを製造している東北パイオニアはウェアラブル機器などの顧客ニーズに応え、曲面化が可能な超薄型化パネルを開発した。デバイスの総厚は0.1mmで、0.5mm厚のガラス基板上に素子を形成したのち、基板をスリミズして薄型化している。このほか透明ディスプレイも開発した。通常アルミなどが使用される陰極部分を透明素材にかえた。ニコンのゴルフ用レーザー距離計に採用されている。

□パナソニック 貼るだけの「化粧シート」製造システム 有機ELパネルの技術 転用

2019. 2. 14

パナソニックは3月にも、顔に貼って化粧する「化粧シート」の製造システムを販売する。カメラを内蔵した鏡で、顔のシミなどを分析し特殊な印刷機が個人に最適なテーラーメイド式の化粧シートを製造する仕組み。薄膜を精密制御する有機ELパネルの製造技術が生かされている。薄い化学品の層を印刷して重ねる技術は、美容分野で花が開きつつある。

□サムスン、折り畳みスマホ(Galaxy Fold)4月に発売 約22万円

2019. 2. 21



韓国サムスン電子は20日、画面を2つに折り畳めるスマートフォンを4月26日に発売すると発表した。たとえば4.6インチのスマホ、広げれば7.3インチのタブレットとして利用できる。スマホ市場の停滞が色濃くなるなか、携帯性と大画面の見やすさをあわせ持つ「1台2役」の新端末で需要の底上げをめざす。

新製品は「ギャラクシーフォールド」。業界では「フォルダブル」と呼ばれる折り畳みスマホが、停滞する市場を活気づかせる「カンフル剤」となると期待されている。ギャラクシーフォールドの価格は1980ドル（約22万円）から。折り畳みスマホをめぐるのは、中国の華為技術（ファーウェイ）も19年半ばの発売をめざして開発を進めている。同国のスタートアップ企業、柔科技は昨秋から中国での予約販売を始めており、1月の家電・技術見本市「CES」でも世界初の折り畳みスマホとして注目を集めた。

□ファーウェイ初の折りたたみスマホ！ Huawei Mate Xは5G対応！

2019. 2. 25



HuaweiがMWC 2019の中で、同社としては初となる折りたたみスマートフォン『Mate X』をリリースした。Mate Xは有機ELディスプレイを採用し、折りたたみ時は6.4（縦横比19.5：9、解像度2480 x 1148）～6.6（縦横比19.5：9、解像度2480 x 1148）のメインディスプレイ（折りたたみ時）インチ。展開時は8インチ（縦横比8：7.1、2480 x 2200）のタブレットとして利用することができる。価格は8GB/512GBモデルが

288,000円程度、高額設定。発売開始は今年の中旬頃から。

◆ファーウェイとサムスンが折り畳みスマホで激突（世界シェアは米 IDC 調べ）

サムスン電子（韓国）		ファーウェイ（中国）（中国）
ギャラクシーフォールド	商品名	Mate X
1980ドル（約 22 万円）から	価格	2299 ユーロ（約 29 万円）
4 月（北米など、日本は未定）	発売時期	2019 年半ば（国、地域は未定）
7. 3 インチ	画面の大きさ（開いた状態）	8 インチ
画面の 3 分割表示も可能	特徴	折り畳んだ際の薄さは 11 ミリ
24. 8 %	世界シェア（2018 年）	14. 7 %

■タッチセンサー

□アップル、ガラス素材で一体成形するキーボードを特許出願—クリック感も得られる

2019. 2. 7

スマートフォンやタブレットのタッチパネル、音声入力など、実用的な文字入力方法は数多く存在するが、長い文章を書く場合やプログラミングをする際には、やはりキーボードが使いやすい。そのため、多種多様なキーボードが販売されていたり、ノート PC に搭載されていたりする。Apple は新たなタイプのノート PC 用キーボードとして、ガラス素材で一体成形するキーボードを考案。このアイデアを米国特許商標庁（USPTO）へ出願したところ、「COMPUTER WITH KEYBOARD」（公開特許番号「US 2019/0033923 A1」）として公開された。出願日は 2018 年 7 月 25 日。

□リンテック 車載パネル用粘着剤参入 弱いUV照射で硬化「スマホ依存」脱却狙う

2019. 2. 14

粘着材料大手のリンテックは 2019 年度、車載タッチパネルディスプレイ用の粘着剤事業に参入する。開発した粘着剤は、車載用モニターのメーカーが樹脂製のカバーパネルと液晶などの表示用モジュールを張り合わせるために使う。粘着剤は特殊な添加剤を配合し、弱い紫外線（UV）照射でも硬化するようにした。

□日本航空電子 小野寺社長に聞く 車載・産業向け提案加速

2019. 2. 15

U I S（ユーザー・インターフェース・ソリューション）事業で車載タッチパネル向けの取組を加速している。車載ディスプレイの大型化や曲面化が今後想定される中、フレキシブルな印刷タイプのフィルムセンサーは需要が高まる。2 月から 2 つめの供給先として 1 車種の車載ディスプレイ用に供給を始めた。

■新技術、材料

□三菱ガス化学 透明PIワニス 折り畳みスマホで商機

2019. 2. 1

三菱ガス化学は2020年までに水島工場（岡山県倉敷市）で透明ポリイミド樹脂「ネオプリム」のワニス（液状材料）製品の量産体制を整える。ネオプリムは高い透明性に加えて、画像のゆがみの原因となる「複屈折」が少ないなど優れた光学特性を持つ。折り畳めるスマートフォンなどの登場によりフレキシブルなディスプレイ部材の需要拡大が見込まれるなかで、新たな商機を取り込む投資でネオプリムを大きな収益源に育てる。フォルダブルスマホなどに搭載するフィルム部材用途の需要を見込む。



□トンボに紫外線反射ワックス 日焼け止め開発に期待

2019. 2. 4

日本全国に広く生息するシオカラトンボは紫外線を反射し、撥水性のある特殊なワックスを分泌していることを、産業技術研究所などの研究チームが明らかにした。研究チームの二橋亨主任研究員は「今回見つかった成分は安全性などを確かめる必要があるが、従来とは違う生物由来の日焼け止めにつながる可能性がある」と話した。

□山本光学 スマホ画面 眼鏡に表示 工場現場・芸能鑑賞に

2019. 2. 8

サングラス製造の山本光学（東大阪市）は、装着するとスマホの画面を表示できるスマートグラスを開発した。両手が空いた状態のままで、作業中の手順などを確認できる。工場や倉庫で作業員の使用を見込む。伝統芸能を鑑賞する外国人にシーンを説明するエンターテインメント向けなど幅広い活用を見すえる。6月に発売、連続9時間ほど稼働13万円ほどを想定している。

□理研・九大 切れたゴム 元通りに 塗料など応用狙う 断面押しつけて修復

2019. 2. 13

理化学研究所の候召民グループディレクターらは九州大学と共同で、[切れても押しつけるだけで元通りにくっつくゴム材料を開発した](#)。[自動車の塗料などの用途を想定する](#)。研究チームはエチレンを鎖のようにつないで作るポリエチレンに注目した。スカンジウムと呼ぶ金属を含んだ触媒を開発し、エチレンのほかにアニシルプロピレンと呼ぶ物質をつなげるようにした。

□ J X T G エネルギー スクリーン用透明フィルム 内装・建材向けにも展開

2019. 2. 15

J X T G エネルギーは、窓ガラスやアクリル板に貼るだけでスクリーンになる透明フィルム「カレイドスクリーン」の用途拡大に取り組んでいる。同社は液晶ディスプレイ向けフィルム材の研究開発過程で、透明で屈折率の高い微粒子が、指向性を持って一度だけ光を反射する単一散乱に注目。これまでにない透過率 90% のスクリーン用透明フィルムを 2014 年に試作した。これがプロジェクションマッピングのネイキッド（渋谷区）の目に留まり、カレイドスクリーンが誕生した。

□ ドコモ 曲がる 5 G アンテナ 通信エリア 容易に接続

2019. 2. 21

N T T ドコモはケーブル（誘電体導波路）を曲げるだけで 28ギガヘルツ帯（ギガは 10 億）の第 5 世代通信（5 G）エリアを作る「5 G 向け曲がるアンテナ」を開発した。5 G 用通信装置につなげたケーブルを部屋の壁などに設置する。ケーブルを曲げた部分から電波が漏れ出し、5 G アンテナとして利用できる。誘電体導波路は従来、ミリ波（24ギガヘルツ帯以上）の電波を低損失で伝送する目的だったが、一定以上曲げると電波が漏れる性質を生かした「逆転の発想」で 5 G 向け曲がるアンテナを開発した。

□ 東大・産総研が技術開発 薄くて曲がる半導体量産

2019. 2. 21

東京大学や産業技術総合研究所は、薄くて曲がる半導体を大量につくるための技術を開発した。加工が難しいとされる薄い半導体を、プラモデルの部品のような構造にして既存の加工装置で押すだけで切り離せるようにした。5 年後までの実用化を目指す。

□ 東京エレクトロンデバイス A I 外観検査装置 判定プログラム 自動生成

2019. 2. 22

東京エレクトロンデバイスは人工知能（A I）を活用して、容易に外観の検査システムを構築できず画像処理装置を開発した。製造ラインに設置して、良品と不良品の判定や位置決め作業などを自動化できる。同装置の画像処理技術は、画像処理を手掛ける子会社ファースト（神奈川県大和市）の技術を応用した。

□ 新素材「C N F」用途拡大 植物由来、製紙各社が開発

2019. 2. 24

建築：生コン流す潤滑材 **食品：どら焼きもちり**

植物由来の新素材「セルノースナノファオバー（C N F）」の用途が広がりはじめた。製紙最大の王子ホールディングス（H D）はこのほど、建築資材向けに出荷をはじめた。食べられる特長も生かし、食品の触感を良くする用途も出てきた。紙離れに悩む製紙業界は「救世主」として期待する。

■カーエレクトロニクス

□ミネベアミツミ、車載アンテナの研究拠点 「つながるクルマ」で需要増

新社屋に 秋田に来夏

2019. 2. 6

ミネベアミツミはミツミ電機秋田事業所敷地内に新社屋を建て、車載アンテナの研究開発拠点として活用する。ミネベアミツミが手がける車載アンテナはカーナビ、携帯電話、地上波デジタルテレビ、ラジオ、衛星ラジオ、キーレスエントリーシステムなど多様な用途で使われる。自動運転車の普及に伴い、「車の需要を上回る車載アンテナの需要が見込まれる」

□アマゾン、自動運転参入 米スタートアップに投資 成長鈍化、次の手探る

ウーグル系が開発先行 アップルが追撃

2019. 2. 9

米アマゾン・ドット・コムは7日、自動運転で有力なスタートアップ企業として知られる米オーロラに出資し、同市場に参入した。大手ITでは既にグーグルやアップルが自動運転を手がける。アマゾンも自動運転を射程に入れ、データの蓄積などを通じて自社サービスを向上するなど、次なる成長を探りたい狙いだ。

□日本電産 EV部品 中国で増産 環境規制で需要増

2019. 2. 15

日本電産は中国で電気自動車（EV）の心臓部に当たる駆動モーターの生産能力を倍増させる。中国の自動車市場は減速しているが、環境規制の強化でEV関連の需要は大きいと判断した。駆動モーターはEVの動力を生み出す基幹部品で、ガソリン車のエンジンに当たる。

□ホンダ 英生産終了、21年中に 「電動化、競争難しく」

2019. 2. 20

じれる企業「脱英国」 部品大手も閉鎖検討 経済に打撃、地元動揺

ホンダは19日、2021年中に欧州唯一の四輪車の生産拠点である英国工場での生産を終了すうと発表した。欧州販売の不振が続いており、生産体制を見直す。英国が16年の国民投票で欧州連合（EU）離脱を決めて以降、自動車大手が生産終了を決めるのは初めて。英国がEUとの合意なく離脱する可能性が高まり不透明感が増すなか、部品メーカーなど英国に拠点を置く製造業に影響が広がる可能性がある。

□新材料「タフポリマー」軽くて丈夫な車を開発他分野へ広がる応用

2019. 2. 25

「タフポリマー」と呼ばれる新タイプの高分子材料を使った車を、東京大などが開発した。軽くて耐久性が高いのが特徴で、車体の大幅な軽量化に成功した。今後、スポーツ用品や福祉機器など様々な分野への応用が期待されている。

■企業動向、製品動向

□日本電産が減収減益へ、永守会長「尋常ではない変化」

2019. 1. 17

日本電産は、2019年3月期の業績予想を下方修正すると17日に発表した。米中貿易摩擦による実体経済へのマイナスの影響で、想定を上回る需要減に加え、大規模な在庫調整が進行していることを反映させた。増収増益予想は一転、減収減益予想となる。会見した永守重信会長は「長い経営の経験の中で、12月は見たことがない落ち込みがあった」と説明。「11月と12月の変化は尋常ではない。この変化を甘く見てはいけない」と語った。売上高予想は前年比2.5%減の1兆4500億円（従来予想は同7.5%増の1兆6000億円）に下方修正した。この減収は営業利益を400億円押し下げる見通し。「一番変化の大きかった12月を基準にして予想数字をつくった」という。落ち込みに対応するため、下期に240億円の構造改革費用を計上、工場統廃合による設備の減損や旧式在庫の早期廃却、M&A（合併・買収）費用の計上などを進める。一方、購入品コストの低減や支出の抑制で140億円の増益要因も見込んでおり、これらの増減要因を加味した結果、営業利益予想を前年比13.0%減の1450億円（従来予想は同16.9%増の1950億円）に、最終利益予想を同14.3%減の1120億円（従来予想は同12.4%増の1470億円）に、それぞれ引き下げた。

□半導体消費 中国が存在感 上位10社中4社占める スマホ中心にシェア伸ばす

2019. 2. 6

世界の半導体市場における中国企業の存在感が高まっている。米ガードナーは2018年の半導体消費額上位10社のうち4社が中国企業だったと発表した。全体の消費額は4766億ドルと17年に比べ13%伸びた。消費額10社のシェアは40.2%。

	2018年の半導体消費額ランキング
1	サムスン電子（韓）
2	アップル（米）
3	華為技術（ファーウェイ、中）
4	デル・テクノロジーズ（米）
5	レノボ（中）
6	步步高（BBK、中）
7	HP（米）
8	キングステクノロジーズ（米）
9	ヒューレット・パッカート・エンタープライズ（HPE、米）
10	小米（シャオミ、中）

□SUMCO、営業益2倍超 ウェハーに追い風 回路微細化限界 量頼みに

2019. 2. 6

半導体ウェハー大手のSUMCOが5日発表した2018年12月期の連結決算は営業利益が前期比2倍超の851億円だった。スマホの減速などで半導体市況が悪化するなかでも、橋本真幸会長は「ウェハーは21年以降に不足に陥る」「今の販売価格ではウェハーが不足する21年以降も新工場は建てられない」と強気。半導体の技術開発（回路の微細化、ウェハーの大型化）が壁に突き当たり、ウェハーの増産頼みの流れに乗っている。18年10～12月期は2年前の1.5倍まで価格を引き上げた。

□中国の宇宙開発、新興勢が台頭 100社超、今後10年で衛星1500基軍民融合策発展促す

2019. 2. 8

中国で宇宙開発分野のスタートアップが台頭している。ロケットの開発や打ち上げ、人工衛星の製造・運用などに参入が相次ぎ、100社超の民営企業が生まれた。民営企業が計画する今後10年間の人工衛星の打ち上げ数は約1500基にのぼる。中国は2030年の「宇宙強国」を目指し、民営企業の成長を後押しする。先行する米企業にとっても無視できない存在になりつつある。

□半導体大手の業績 急減速 設備投資を手控え

2019. 2. 10

世界8社第4半期 純利益3割減

世界の半導体メーカーの業績にピークアウト感が強まっている。9日までに業績を発表した韓国のサムスン電子など主要8社の2018年第4半期の純利益合計は前の四半期比で約3割減少した。中国景気の減速が鮮明になる中、米アップルの「iPhone」などスマホの販売が鈍化し、データセンターの建設ラッシュも一巡した。各社は在庫の滞留で財務が圧迫されやすくなっており、設備投資を手控える動きも出始めている。

❖主要8社：「サムスン電子」「SKハイニックス」「インテル」
「テキサス・インスツルメンツ（TI）」「クアルコム」「蘭NXPセミコンダクター」
「独インフィニオンテクノロジー」「ルネサスエレクトロニクス」

□電機・精密、再生医療に照準 成長市場で技術転用

2019. 2. 11

「ニコン」細胞を大量培養 「ソニー」ブルーレイ応用

□材料開発にAI革命 金属など「職人技」より効率的

2019. 2. 17

□日本の通信23位に転落「光」速度の先進国順位、投資後手に5Gの足かせ、革新阻む

2019. 2. 16

日本の通信環境が悪化している。日本経済新聞が各国の光回線など高速固定通信の速度を調べたところ、経済協力開発機構（OECD）加盟36カ国中、日本は2015年の7位から18年は23位に転落したことがわかった。大容量動画の普及に設備増強が追いつかず、夜は東南アジア主要国より遅い。次世代通信「5G」が始まれば、光回線を通るデータも爆発的に増える。混雑を放置すると産業競争力が落ちていく。

□MWC（「モバイル・ワールド・コンGRESS」）バルセロナ：2019年2月25日開幕

5Gスマホ未来形競う 折り畳み vs 画面分割 勝負は…次世代アプリ次第

2019. 2. 26

次世代の高速通信規格「5G」を巡り、スマホ商戦の火蓋が切られた。世界最大の携帯関連見本市「MWCバルセロナ」が25日開かれて、新たなデザインとして中国・華為技術（ファーウェイ）などの折り畳み型と、別売りディスプレイを取り付けられる韓国LGの分割型が目立った。スマホ市場で4位のシャオミも、5月から5Gのスマホを売ると発表した。価格は599ユーロ（約7万5千円）。ソニー縦横比が21：9という縦長ディスプレイを採用した「XPERIA1」を発売した。6.5型4K有機EL搭載。

□5Gスマホ 来月開始へ 韓国KT

2019. 2. 26

韓国でスマホを使った次世代の高速通信規格「5G」の消費者向けサービスが3月末にも始まる見通しとなった。韓国通信大手KTの関係者が25日明らかにした。KTはスマホに使う5Gサービスの商用化は韓国が世界で最初になるとしている。

■その他

□塩野義製薬、国内シェア47% インフル薬 小さな巨人 メガは素通り「看板」守る

2019. 2. 5

塩野義製薬が2018年に発売した抗インフルエンザ薬「ゾフルーザ」が国内市場を席巻している。「一回飲むだけ」の手軽さから人気が過熱。18年10～12月の国内数量シェアは47%を占めた。2位がイナビル（三共製薬）18%、タミフル（中外製薬）17%、沢井製薬のタミフル後発薬12%と続いた。

順風に見えるがリスクも浮上している。1月下旬、国立感染症研究所の調査でゾフルーザを服用した患者から、薬が効きにくくなる耐性ウイルスが検出されたことが判明した。

□電子図書館 広がる 運営費安く 本の返却不要

2019. 2. 14

大日本印刷：100ヶ所導入狙う 紀伊国屋書店：学校にシステム

印刷会社や書店大手がインターネット上で電子書籍を貸し出す「電子図書に乗り出す。

大日本印刷（DNP）が今後2年で現状の約4割増の100自治体、紀伊国屋書店も

2019年春までに大学向けなどで同4割増の100カ所への導入を目指す。

図書館外からでも本を借りられるうえ、2週間程度の貸出期間が過ぎると自動で読めなくなるため、返しに行く必要もない。各社が電子図書館に注力する背景には、

紙の出版事業の縮小を電子書籍で補う狙いがある。18年の紙の出荷額は約1兆2921億円。ピーク時の1996年の半分以上に落ち込む。

□AIが浸食 日本の職場も一変 10～20年後 49%が代替予測

「熟練者の勘」必要性乏しく

2019. 2. 18

□日の丸半導体 4つの敗因 平成日本 失速の研究

2019. 2. 18

平成の日本にとって逃した魚の代表は半導体だろう。米 IC インサルツによると、1990年に日本勢の世界シェアは49%に達したが、2017年には7%まで落ち込んだ。米ガードナーが発表する世界の半導体上位10社からも18年には日本企業が姿を消した。識者に取材し、4つの敗因をまとめてみた。

- ❖「組織と戦略の不適合」
- ❖「経営者の質」
- ❖「強すぎる自前主義」
- ❖「技術偏重、マーケティング軽視」

□大変調 企業決算 牙むく「トランプ砲」標的は自動車と為替

2019. 3. 5

米中摩擦と中国の景気減速が日本企業を直撃している。2019年3月期の東証1部上場企業合計の純利益は3年ぶりに減益見通しだ（SMB C日興証券）。

- ❖自動車 米中2大市場の減速、固定費増 日米貿易摩擦の三重苦
- ❖エレクトロニクス 半導体「超好況」終息、調整局面へ 次世代「5G」の成長待ち
- ❖機械 下方修正でも堅調 対象事業を注視
- ❖電子部品 中国・スマホ依存に負の連鎖 村田・太陽誘電・TDKの強み
- ❖個人・訪日客消費 中国「爆買い新規制」の影 10月消費増税も懸念材料

□Next1000 独自技術 海外で存在感 海外売上高の増加幅

2019. 2. 26

日本経済のけん引役と期待される中堅上場企業「NEXT1000」を対象に、海外売上高比率の5年間の増加幅が大きい企業をランキングしたところ、独自の技術やコンテンツ力を持つ地方企業が目立った。（2月14日時点に上場する国内企業で、直近売上高が100億円以下の967社が対象。）

❖海外事業を伸ばしている企業

順位	社 名	業 容	海外売上比率 5年前比増減幅	海外売上高比率 直近期（%）
1	トリケミカル研究所	半導体用化学薬品	30.8	60.9
2	日本一ソフトウェア	家庭用ゲームソフト	25.5	71.2
3	ピープル	幼児向け玩具・育児用品	21.0	37.9
4	太洋工業	フレキシブルプリント基板	19.4	31.0
5	サムコ	半導体製造装置	19.3	41.0
6	トミタ電機	フェライト	19.0	48.8
7	s a n t e c	光通信用部品	18.2	60.3
8	東洋ドライループ	固体被膜潤滑剤	17.7	28.4
9	タツミ	自動車・二輪用部品	17.6	32.5
10	エヌ・ビー・シー	太陽電池の製造販売	15.8	90.7

以上